

平成 26・27 年度 埼玉県教育委員会・ふじみ野市教育委員会委嘱  
平成 27 年度 入間地区特別活動研究会委嘱

学力向上研究校指定事業 研究発表会

# 研究紀要

## 研究主題

社会性を育み、自治的能力を高める学級活動  
豊かな学校生活を築くために主体的に活動する児童の育成  
～ 学力向上を目指して ～



ふじみ野市立東原小学校

## あいさつ

ふじみ野市教育委員会教育長 朝倉 孝

ふじみ野市立東原小学校は、平成 26・27 年度「社会性を育み、自治的能力を高める学級活動」を研究主題とし、研究を進めてこられました。本日、研究発表会が盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

研究指定二年目となる今年度は、昨年度までの研究をさらに深め、児童が問題解決の方法を考え、話し合い、主体的に活躍する学級活動の充実を図っています。

東原小学校の研究の特色は、学級活動を中心にして、児童の思考力・判断力・表現力を育み、学力向上を図る点にあります。学級活動で身に付けた話し合い活動の進め方を、各教科における学習に生かして言語活動の充実に取り組んできました。その結果、各教科で問題を解決する学習の場面において、自分の考えを持って話し合い、よりよい解決方法を見出そうとする力が身に付いてきています。このような実践的な研究から、児童が主体的に生き生きと学ぶ姿が見られ、友達と互いに教え合い、高め合うことで学力向上へとつながっています。

終わりにあたり、研究に携わった 岡本 哲夫 校長先生はじめ教職員の皆様のご苦勞に対し、深く感謝の意を表すとともに、温かいご指導をいただきました文部科学省教科調査官 安部 恭子 先生をはじめ、多くの指導者の先生方にお礼を申し上げ、あいさつといたします。

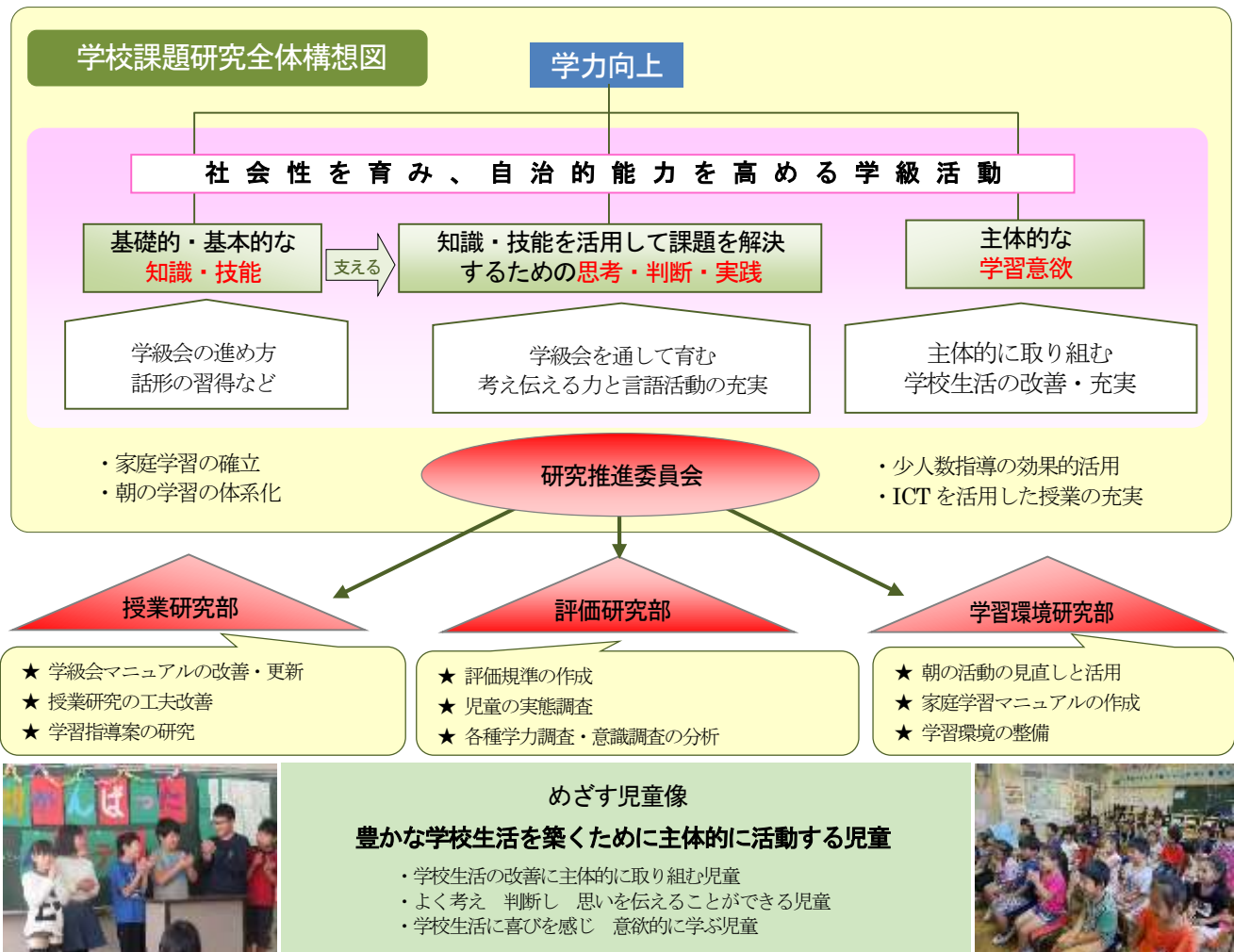
ふじみ野市立東原小学校校長 岡本 哲夫

本校は平成 26・27 年度埼玉県教育委員会・ふじみ野市教育委員会、平成 27 年度人間地区特別活動研究会の委嘱を受け、特別活動（話し合い活動）の充実を通じた学力向上に取り組んでまいりました。

OECD による学習到達度調査では、「学級の雰囲気が良いほどであるほど」また「児童・生徒のモラルが高いほど」得点が高くなることが報告されています。本校でも「学級活動を充実させ自治的能力を高めることが学力向上に繋がる」と考え、職員一丸となって研究を進めてまいりました。

研究の過程では、提案理由の提示の仕方、時間内に決めるための柱立ての工夫、思考を深めるための黒板の可視化・構造化、児童一人一人の思いの活かし方など、様々な検討を重ね、話し合い活動の充実を図ってまいりました。その結果、授業を支える望ましい集団が醸成され、思考力・判断力・実践力の高まりとともに学習意欲の向上にも成果を上げることができました。

研究にあたり、文部科学省教科調査官・安部恭子先生をはじめ、小川町立八和田小学校長・稲垣孝章先生、富士見市立ふじみ野小学校長・山下道夫先生、狭山市立入間野小学校長・小俣恵美子先生、その他多くの先生方にご指導をいただきましたこと、衷心より感謝を申し上げ、あいさつといたします。



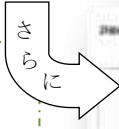
# めざす児童像と研究の視点

	学級会で	具体的な活動場面で
低学年	友達の意見に興味を持って聞く 自分の意見を理由もつけて、相手に伝わるように言える	自分がすることを考え、決まったことを進んで活動できる
中学年	提案理由や話し合いのめあてにそって、自分の考えを発言できる 異なる意見から考えを深められる	問題に気づき、解決しようとする考えができる 決まったことを進んで実践できる
高学年	集団討議の場で目標実現のために建設的に発言できる 公平に判断し、多様な意見を認め 高め合える	課題に気づき、学級や学校のために活動できる 自覚と誇りを持ち、他学年をリードできる

## 話し合いをさらに深めるための方策

「発表し合い」から「話し合い」に進め、話し合いを焦点化、深化するために重視すること

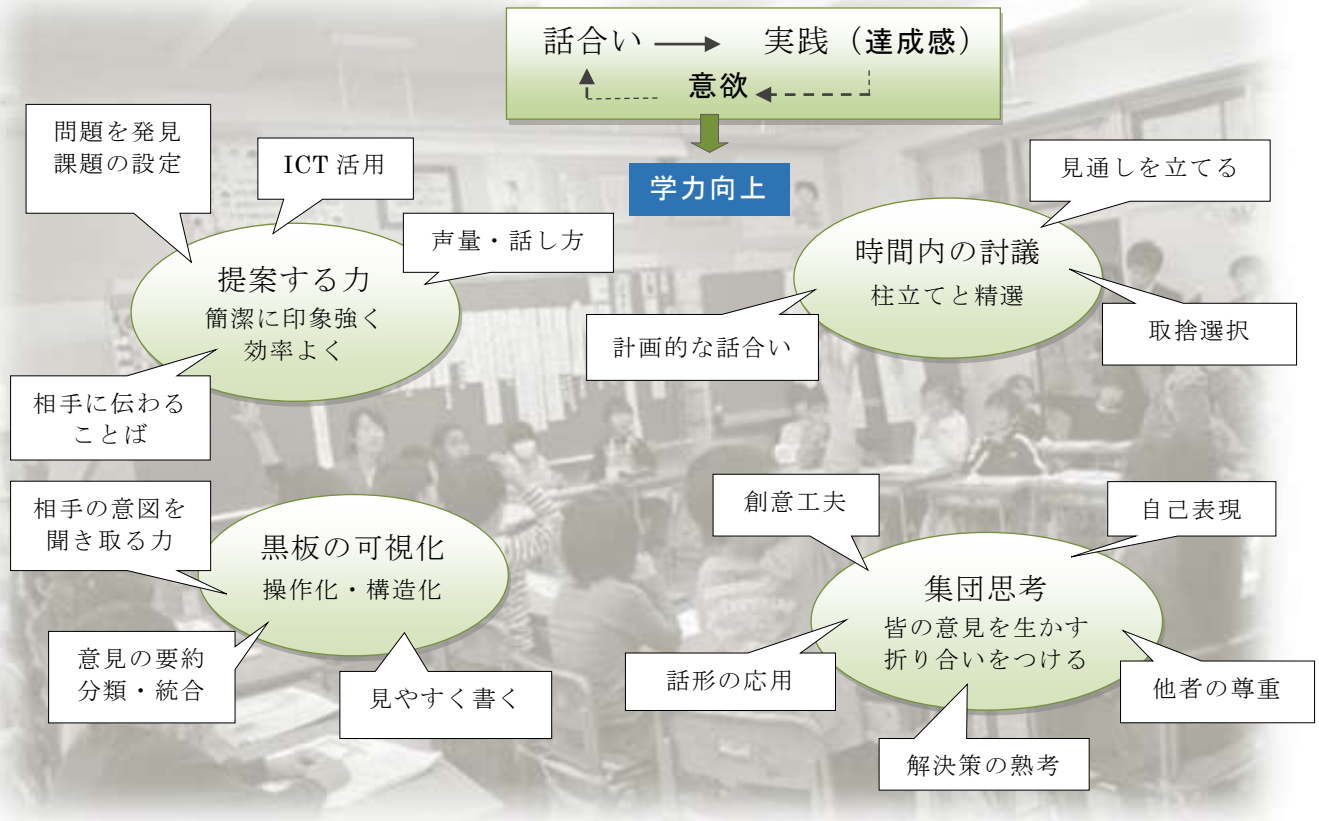
- 話し合いとなる議題選定の工夫
- ショート学活の活用
- 「提案理由・めあて・柱立て」の整合性
- 学級会グッズの活用、学級会ノート、計画委員の指導
- 教科指導と関連した「話す・聞く」技能の習得
- 発達段階に応じた司会の進め方
- 少数意見の生かし方、皆の納得で決定する話し合い
- 実践まで含めた評価のあり方



## 学力向上との関わり

※ 指導案に、事前・本時・事後の活動で「育てる力」を明記している

- ・ 学級に支持的な風土を作り、自己有用感を育む
- ・ 自主的・実践的な態度が、主体的に学習する態度に結びつく
- ・ 各教科で培った能力を総合、発展させる場となる



# 問題の発見 ~ 実践のサイクル

学級の歴史（行事や学級会）～学級への愛着や誇り、参画意識

問題の発見

今、学級は～なので、  
もっと～なるといい

計画委員会

議題の選定 → 決定

ノートの記入

学級をよくするために本気で考える

準備

話し合いの見通しを持つ  
内容を精選する

学級会

計画委員の輪番  
皆が役割を経験し、  
進行を助け合う。

時間内に話し合う  
決めたらすぐに実践

実践

楽しかった  
挑戦できた  
やってよかった

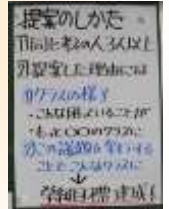
5年生「友達カルタ大会をしよう」～友達の良いところ再発見～

実践後の感想 「カルタ大会をやって、初めて知ったことがすごくあってびっくりした。まさか、こんなに再発見できるとは思っていなかった。準備は大変で、カルタを作ったり、招待状を書いたり、先生にインタビューするなど、難しいこともあった。それを全て終えて、楽しい大会がやれてよかった。」



学級会コーナー

- ・議題箱の設置
- ・次回学級会の予告
- ・学級会までの流れ
- ・議題例 など



次回の議題や提案理由を知り、各自で考えを練っておく



生きそうカード  
(中高学年)  
全ての意見を生かす方法  
を話し合う



提案の工夫

必然性・説得力・簡潔  
補助ボードの活用



意見の要約（小見出し）  
グループ分け

学級会グッズの活用  
短冊・太いペン  
思考の可視化・構造化

次の課題は？  
また皆で取り組もう

児童のまとめ

「友達関係がさらに深まり  
学級がよくなった。」

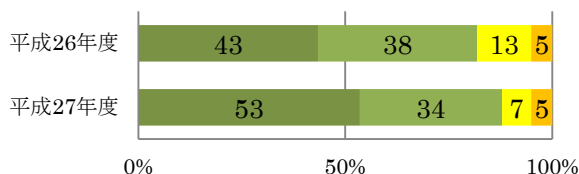
実践後の振り返り

前の自分と比べてどうか  
友達のよさも記述

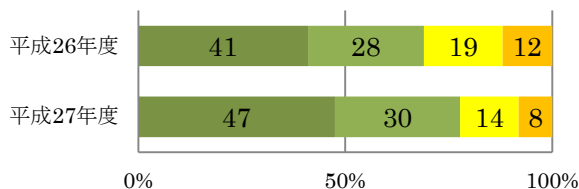


## アンケート調査より

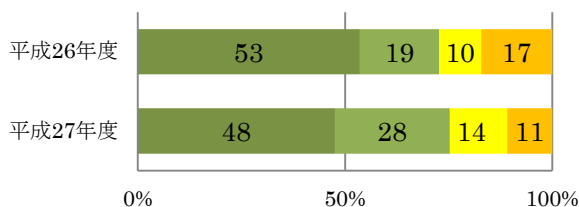
### 問1 話し合い活動は好きですか（全校）



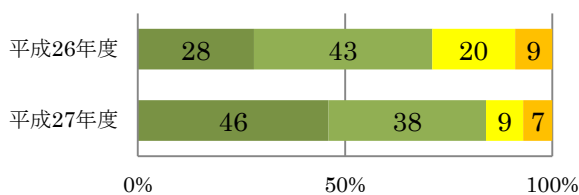
### 問2 自分の考えを言うことができますか（全校）



### 問3 友達の意見を聞いて、いいと思ったら意見を交えられますか（中学年）



### 問4 課題に気づき、全体のために活動できていますか（高学年）



■はい ■どちらかといえばはい ■どちらかといえばいいえ ■いいえ

#### 理由（児童の記述から）

- 考えもしない意見を言う人がいて、楽しくなった。
- 事前に計画をしっかりと立てるようになったから。
- 決まったことでクラスがよくなるから。
- クラスをよくするために動けることがうれしい。
- 話し合ったことを実行するのが楽しみだから。
- ▲ 意見がなかなか言えない。

- 決めたことが実行できるから言いたい。
- 自分の意見に自信が持てるようになったから。
- 意見を言わないと後で後悔すると思えるようになった。
- クラスをよくするには、自分たちの意見が必要だから。
- 緊張する時もあるが、何度も学級会があるのでチャンスが多い。
- 準備の時間が十分にあるから。
- ▲ 自分の考えがうまく説明できない。理由が思いつかない。

- できない時もあるが、いいと思ったら意見を変えられるようになった。
- 友達の理由を聞いて、考えを深めることができるようになったから。
- 友達の意見もおもしろいと思えるようになったから。
- 自分よりいい意見の方が、より学級がよくなるから。
- 提案理由やめあてにそった意見を優先して決めようと考えているから。
- 折り合いも必要だと思うから。
- ▲ 自分で意見を出したのだから、最後まで責任を持ちたい。
- ▲ 1回も自分の考えを変えたことがない。

- みんながクラスをよくするためにやっているから、自分も。
- 生活の中で、何が大切か考えられるようになった。
- 自分たちにできることを考え、行動することが大切。
- 決まったことがきちんと実行にうつされるようになったから。
- クラスのチャレンジや目標を決め、あいさつをしっかりすることに挑戦できたから。
- ▲ 難しい。

## 教師の意識（アンケートの記述から） ～ 学力との関わりについて ～

- ・ 発言力が向上し、友達を納得させるような建設的な考えが言えるようになった。
- ・ 他教科で友達の意見をよく聞くようになった。それと自分の考えを照らし合わせて言う力がついた。
- ・ やる気を育てる点、思考力を伸ばす点、プレゼン力を伸ばす点で役立った。
- ・ 学級会での発言や実践でつけた自信が、教科の学習につながっている。
- ・ 学級会を経た実践により生活面の規律が整い、低位の児童で学力向上につながっている実感がある。
- ・ 工夫して前向きに取り組む意欲と自分たちでよいクラスをつくっているという自信につながり、ひいては学習意欲へとつながっていると感じる。



### 【研究の成果】

- 提案理由や話合いのめあて、決まっていること等を踏まえ、一人一人の思いや願いを大切に話合いができるようになってきた。
- 「話合い活動の充実 → 実践の充実 → 意欲の向上 → 学級生活・学力の向上」が一連の流れとなり、自治的能力が高まってきた。
- 全国学力・学習状況調査（質問紙）では、「自己肯定感・学校生活や他者との関わり・話合い活動」の項目の結果が向上するとともに、埼玉県学力・学習状況調査も含めた学力調査において良好な結果を得ることができた。

### 【課題】

- 学級会の型は定着してきたが、異なる意見に折り合いを付け、多様な意見を生かす話合い活動の研究をさらに進めていく必要がある。
- 話合いをより深め、よりよい集団決定と実践を積み重ねることにより、学級・学校内の諸問題に気づき、自ら解決する力をさらに高めていきたい。

## ご指導いただいた先生

文部科学省 教科調査官		安部 恭子	先生
小川町立八和田小学校	校長	稲垣 孝章	先生
富士見市立ふじみ野小学校	校長	山下 道夫	先生
狭山市立入間野小学校	校長	小俣 恵美子	先生
鶴ヶ島市教育センター	所長	岸田 晴彦	先生
埼玉県教育局 義務教育指導課	課長	山田 晋治	先生
埼玉県教育局 義務教育指導課	学力向上推進担当指導主事	市川 篤史	先生
埼玉県教育局 西部教育事務所	主席指導主事	忍田 壽生	先生
埼玉県教育局 西部教育事務所	社会教育主事兼指導主事	抜井 由美子	先生
ふじみ野市教育委員会	教育長	朝倉 孝	先生
ふじみ野市教育委員会 学校教育課	副参事兼学校教育課長	三宅 雅生	先生
ふじみ野市教育委員会 学校教育課	主幹兼学校管理係長兼指導主事	山崎 直樹	先生
ふじみ野市教育委員会 学校教育課	指導係長兼指導主事	星野 和久	先生
ふじみ野市教育委員会 学校教育課	指導主事	金子 文雄	先生
ふじみ野市教育委員会 学校教育課	指導主事	清水 篤史	先生
ふじみ野市教育委員会 学校教育課	指導主事	石川 聖徳	先生
ふじみ野市教育委員会 学校教育課	指導主事	鈴木 達也	先生
ふじみ野市教育委員会 学校教育課	指導主事	國井 創	先生

## 研究に携わった職員

### 【平成27年度】

岡本 哲夫	豊田 真由美	原田 康志	江良 晃子	小谷野さつき	高橋 義憲
蒔田 将也	山本 朋子	増田 美恵子	一水 悠子	金井塚 明美	木村 高志
押見 智恵子	藤本 純平	高梨 裕美	石川 百合子	村上 森也	矢沢 千代子
津野 孝志	山田 広子	鈴木 翔	菅野 美喜	茂木 雅喜	渋谷 健太
峰岸 和子	富田 桂子	粕谷 一雄	新井田 諒子	日塔 美佐	松原 穂澄
滝澤 智奈美	大塚 やよい	佐藤 ゆき乃	杉山 由紀江		

### 【平成26年度】

石岡 健	熊木 圭太	荻島 由佳	今井 伸子	岩崎 裕見子	佐々木 稔
森 須和子	高尾 昌孝	村田 幸恵	太原 由貴	山形 康典	伊勢 真理子